



# 入谷小校長室だより 顔晴れ！入谷っ子！

2018年12月1日

No. 9

TEL 46-2655

FAX 46-2654

学校教育目標：命とふるさとを大切にする子どもの育成

目指す児童像：《一はきはき一てきばき一にこにこ一》

☆いつもまなぼうとする子 ☆りりしくたくましい子 ☆やさしくたすけあう子  
心も体も元気な子どもを育成するために 家族みんなではやね・はやみき・あさごはんを实践しよう!!

文責：校長 高橋 有

## ～2学期末を迎えて思うこと～

早いもので、あと3週間で2学期の終業式を迎えます。子供たちは、修学旅行、宿泊学習、校外学習、学芸会、持久走大会など、様々な教育諸活動において、一人一人が自分のめあてをもち、今の自分を超越すること（「自己ベスト」）を目指し、ひたむきに取り組んできました。この姿を見るにつけ、子供たちが、一步一步成長している証であることを感じています。このような姿が見られたのも、ご家庭、地域のご支援やご協力のおかげと感謝申し上げます。

### 詩「笑っているとあったかい」

笑い おばあちゃんの家で 私が大笑いしていると  
お母さんが『何で笑っているの？』と聞いてきた。  
何で笑っているのか忘れてしまったけど  
おばあちゃんの笑い方がおもしろくて  
笑いが止まらなくなった。  
気がつくとお母さんも大笑いしていた。  
『私の笑い方がおもしろかった。』と言っていた。  
変なの？ でも笑っているとあったかい



【「悠+」2010年12月号掲載 小学3年生の詩（ぎょうせい）より】

この詩では、おばあちゃんの笑いが私の笑いに、そしてお母さんの笑いへと次々とつながっていった様子が伝わってきます。笑いの伝染力は、ものすごい力を持っているのだと改めて感心させられます。

最後の「でも笑っているとあったかい」という言葉が、笑いの本質についてすばらしいと思います。日常の中に笑いがあると何かほっとします。笑いがあると、心が和みます。

忙しい時期になると、ゆっくり話を聞く時間が少なくなりがちですが、一緒に笑い合えるようなあたたかな関係は、何より子供たちに安心感をもたらします。



最近、私自身も、これまで以上に日常の中で笑いの力について考え、あたたかな子供との人間関係を築いていきたいと、改めて思っています。

子供に接するときの大人の表情を子供たちは敏感に感じていることを忘れずに！

## 《11月の職員会議で教職員に提示したことばです！》



のことば・・・



『寒さに震えた者ほど、太陽の暖かさがわかる』

《詩人 ホイットマン（アメリカ:1819～1892年）》

私は毎年、正月に行われる「箱根駅伝」のテレビ観戦を楽しみにしています。

一人一人の選手たちの走りに注目するのは当然のことです。ただ、私はその他に、アナウンサーが紹介する選手たちにまつわる様々なエピソードに心を打たれることが多々あります。

箱根駅伝の選手になることを夢見て練習を重ねてきた。しかし、思うようにタイムが伸びず、もう止めてしまおうかと思った選手。また、前年に選手に選ばれたけれども、思うようにタイムが出なかったり、途中棄権をしなければならなかったりして、自信を失い、精神的にも肉体的にもどん底の状態に陥ってしまった選手のことなど、様々なエピソードが毎年紹介されます。

そして、そのようなエピソードとともに、母親から「たとえどのような結果であっても、我が子が箱根駅伝に出場しがんばってくれることが誇りである」との一言で、「よし、母親がそう思ってくれるのであれば、もう一度がんばってみよう」と思い、自分の限界まで努力を続け、翌年、好成績を残すことができたという話が伝えられたりします。その他にも、自分を支えてくれた家族、監督、仲間たちへの感謝の気持ちを口にしていた選手の言葉が印象に残っています。

テレビ画面の中で颯爽と走っている選手たちの多くは、日々、もがき苦しみ、精神的にも肉体的にもどん底状態を味わった選手です。そして、そのようなときに様々な人たちからもらった励ましやアドバイスが砂に水が吸い込まれるように心に浸み込むことで力を得て、立ち直り、苦難を乗り越えたのです。だからこそ、走り終えた時の満足感、充実感は倍増するし、その後の自分の成長の糧とすることができるのです。そして、見ている私たちに感動を与えてくれると思います。

アメリカの詩人ホイットマンは「寒さに震えた者ほど、太陽の暖かさがわかる」と言っています。この言葉の後に「人生の悩みをくぐった者ほど、生命の尊さを知る」と続いています。つまり、冬の寒さを感じれば感じるほど、春の訪れにより太陽の暖かさがこのうえもなくうれしく感じるのと同様に、苦しみや苦労が大きければ大きいほど、生きている喜びや満足感を得ることができるということです。

11月に行われた持久走大会の経験を踏まえ、辛くても、苦しくても努力を惜しまずがんばることにより、その後に大きな喜びがやってくることを伝えてください。そのためにも、教師の励まし、指導が不可欠です。個々に応じた支援、今後ともよろしく願います。

ご家庭でも、家族の一言が子供たちの励みとなり、自分の目標に向かって、努力を続け、歩み出そうとする勇気にも結び付くと思います。学校と家庭とが連携し合い、子供たちの志を支えていきましょう。